

2008年9月17日

北海道知事
高橋 はるみ様

「脱原発・クリーンエネルギー」市民の会

代表 船橋 奈穂
代表 小野 有田
代表 山田 剛
代表 山田 富士雄
代表 藤門 弘



「プルサーマル計画に関する公開シンポジウム」に対する公開質問状

道は、9月12日に「プルサーマル計画に関する公開シンポジウム」の開催を明らかにした。道は、本シンポジウムの目的を、「地元をはじめ道民の皆さまとともに、泊発電所におけるプルサーマル計画の安全性などについて、わかりやすい形で考えること」としているものの、その内容、あり方、進め方などについて私たちは多くの疑義を持つものである。よって、「シンポジウム」に関わり以下の点について道の考えを、9月19日までの文書にて明らかにするよう求める。

記

1. プルサーマル計画に関わるシンポジウムにもかかわらず、第一部において「低炭素社会への誘い」を企画したのは、二酸化炭素削減を口実に原発を肯定し、さらにはプルサーマルの必要性すらも既定事実として扱う意図を持つものと考えがどうか。
2. 有識者検討会議の成田会長が、検討状況として中間報告を説明することを否定するものではないが、「プルサーマル計画の安全性について」との演題は、如何にも安全性が確保されたかのような妄想を振りまく極めて恣意的なものであることから、変更すべきと考えるがどうか。
3. 第二部パネルディスカッションにかかわり、コーディネーター、パネリスト等の人選過程が不透明である。それぞれの経歴を明らかにするとともに、その選考過程についても明らかにすること。
4. パネリストとして有識者検討会議副会長が参加することは、その発言によっては有識者検討会議の客観性・公平性が問われることになると思うがどうか。
5. 参加者との意見交換を予定しているようだが、その時間はどの程度で、何人ぐらいの意見を取りあげる予定なのかを明らかにすること。
6. 開催1ヶ月前の告知は、道民に周知するには不十分な期間である。講演やパネルディスカッションの人選などが決定する以前に「シンポジウム」事態の告知は出来たにも関わらず、それを行わなかったのは、本「シンポジウム」の位置づけに関心のある一部の参加者によるアリバイ的なものといった意図があると思わざるを得ない。なぜ開催1ヶ月前の告知となったのかその経緯を明らかにすること。
7. 以上のように北海道が、10月12日に岩内町で開催する予定の「プルサーマル計画に関する公開シンポジウム」については、多くの疑義や解消すべき問題があることから、「公開シンポジウム」については延期をし、内容についても再考すべきと考えるがどうか。

以上